

# JWFファンド2019 実施概要

## 3.ケニア

- 団体:Eco-Friendly Self Help Project(#239)
- 期間:2019年10月~2020年3月
- 実施地:ケニア、シアヤ県
- 費用:1,139ドル(JWFファンド1,000ドル、受益者86ドル、地元評議会委員ドル、実施団体33ドル)
- 受益者数:1,096人
- 実施地の水問題:リゴマ村は人口密集地域であり、大半が貧困状態で暮らしている。水源としている湧水の周りで子供たちが排せつをし、人々が湧水で洗濯を行うため、湧水池には人間や家畜の排せつ物が流れ込んでいた。これにより、リゴマ村の90%以上の人は、安全な水にアクセスすることができない。湧水が汚染されていることから、住民の汚染された水に起因する病気(アメーバ赤痢、下痢、腸チフス、コレラ、ビルハルツ)の罹患率は高い。近隣のムトゥンブ診療所に来院する人の約80%は、水や衛生に関連する病気の症状を抱えていた。
- 主な活動内容:コゴマ湧水設備及びその囲いの建設、住民を対象とした意識啓発のためのミーティング開催(4回)、水質検査、水管理委員会の活動



コゴマ湧水設備建設前の様子



コゴマ湧水設備を建設中の技術者

# JWFファンド2019 フォローアップ結果

## 3.ケニア

2021年3月現在

### 【現状】

- 湧水保護設備…故障などはなく、使用できている。大腸菌群が検出されており、住民たちは煮沸・塩素消毒している。
- 維持管理…維持管理委員会と若者のボランティアが協力して維持管理を実施。清掃や修理に必要な費用が発生した際は、利用者から徴収している。集めたお金は維持管理委員会が管理している。

### 【変化】

- 結束力…維持管理委員会が住民たちに思いやりと協力の重要性を説き、協力体制を築いている。
- 衛生習慣の実行…飲み水の煮沸・塩素消毒や手洗いの習慣化や、設備周辺の清潔さを意識するなどの変化があった。
- 簡易的な橋の設置…汲んだ水を運ぶ受益者が苦勞していることに気づいた維持管理委員会が主導し、実現した。
- 魚の養殖…湧水保護設備の50Mほど下流で試験的に魚を育て始めた。
- 得られた水の活用…建設した設備から汲んだ水を塩素消毒し、学校では手洗い用に活用している。

### 【その他】

- 予想外の影響や住民たちの争いは起きていない。
- 実施団体は2020年5月に米国本部の国際団体からの寄付で対象地域の学校に石鹼と手指消毒液が使用できるようになった



# JWFファンド2019 フォローアップ結果

## 3.ケニア

2021年3月現在

### 現場からの声(抜粋)



Otieno Wajewaさん  
(72歳、村の長老)

プロジェクト完了後、村の住民たちは乾季でもたくさんの水を得ることが出来ています。簡単に無料で水を利用できるようになったことで、他の活動に充てる時間の余裕が出来ました。若者たちは、地域の資源や連帯感に関して責任を持つ必要性を感じています。



Alungoさん  
(51歳、維持管理委員会のメンバー)

委員会のメンバー同士、そして村人たちに思いやりと連帯感の良さを伝えてきました。これにより、湧水保護設備の周りはきれいに保たれ、必要な時は地域住民の協力を得られています。委員会では、湧水保護設備を使うすべての世帯から定期的な維持管理費用として50ケニア・シリングを徴収しています。若者のボランティアたちは維持管理委員会が実施する維持管理の訓練に参加しています。



匿名  
(50歳、設備の利用者)

湧水保護設備を使用しています。設備は魅力的で水を汲みに行くのが楽しみです。プロジェクト完了後、安全な水を使えるようになったことで、良い変化がありました。設備の周りはいつもきれいです。